



続 「鍼灸」は「効果」があるのか？

ヨーロッパ医学にはない鍼灸治療の特質 第3回 「しびれ」の種類

琉球治療院 関 忠雄

1. 「しびれ」の種類

「しびれ」は、手足に力が入りにくくなる「運動麻痺」と、正座の後のようなジンジンする「感覚の異常」の2種類に分けられます。どちらかのみが起こる場合と、両方が同時に起こる場合があります。運動麻痺は、脳から手足を動かす命令を伝える運動神経の経路に障害が起こり、手足の筋肉に思い通りに力が入らなくなったり、筋肉が衰えてきたことから発生。一方、感覚の異常は、手足の感覚を脳に伝える神経の経路に障害が起こって出てきます。

鍼治療をしていると頭を悩ます疾患に「痛み」とこの「しびれ」があります。ヨーロッパ医学でも「しびれ」については難題のようで、ドクターも頭を悩ませているようです。数多くの患者さんを鍼灸を通して診てきた私の経験から見ると、「しびれ」には、「運動麻痺」と「感覚の異常」以外にも大きく2つのタイプがあると感じています。1つは鍼治療が奏効する「しびれ」。そしてもう一方は鍼治療をしてもなかなか軽減していかない「しびれ」です。この全く対照的な「しびれ」を同時に経験したことがあります。これからその理由を考えてみたいと思います。

① 鍼治療が効果的だった「しびれ」

患者Aさんは当初足の裏に違和感が

あったのですが、それがだんだんと「しびれ」となり時間の経過とともに強くなりました。そしてしまいには歩行するのに困難をきたすようになってしまったそうです。足裏部が感じる「しびれ」は砂の上を歩いているような感覚だといいます。そこで私は、足裏に鍼の刺激を感じるような施術を繰り返しました。Aさんの記録によると最初の刺鍼から3週間経った時点で、まったく「しびれ」を感じなくなったとのことでした。

② 鍼治療が効果を示さなかった「しびれ」

患者Bさんは脊柱管狭窄症で手術を受けた後に残った「しびれ」です。新聞のコラムにそのときの経過を投稿されているので引用させていただきます。

『…脊柱管狭窄症と診断されて、数週間後にオペを行うと告げられた…。難しいオペは無事済ませたものの痛みは変わらない。痛み止めを飲んで耐えた。2週間も過ぎたころ痛みは和らぎ始めた。3週間後にはピタリと止まった。うれしかった。…(中略)…今は左足がマヒシトイレに行くのも車椅子。介助なしには便器に座ることも立つこともままならない。回復に向けた厳しいリハビリは続く…。』

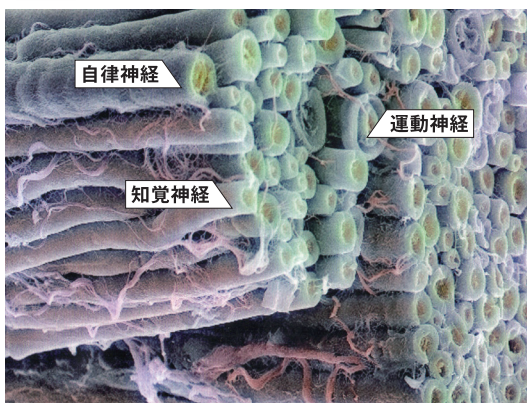
Bさんは痛みが去った後にやってきた「しびれ」にご苦労されていました。私は鍼



関 忠雄 Tadao Seki

- 1949年 長野県生まれ
- 1973年 中央大学法学部卒業
- 1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業／倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修
関鍼灸治療室を開設
- 2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修
- 2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修
- 2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長
- 2013年 アルゼンチン(F・バレイラ)鍼灸院院長
- 2018年 アルゼンチンから帰国
- 2019年 琉球治療院勤務

写真1 神経線維



太いのが運動神経、中位が自律神経、細いのが知覚神経

治療を依頼され施術しましたが、「しびれ」が軽減することはありませんでした。

このお二人への鍼治療はほぼ同じ時期でした。Aさんの「しびれ」は回復し、Bさんの「しびれ」は鍼治療の効果がありませんでした。なぜ、このような結果になったのでしょうか？

2・神経線維の太さと「しびれ」

神経組織の写真を見てみましょう。

Aさんの「しびれ」は写真の細い神経線維(知覚神経線維)に起因する症状だったと私は推察しています。細い知覚神経線維だったために鍼治療の刺激に容易に反応し、3週間程度で元の状態に戻ったのではないかと考えて

います。知覚神経の異常興奮状態が強いときには「痛み」として感じられ、弱いときには「しびれ」として感じられるからです。

これに対してBさんの症例は脊柱管狭窄症の手術により、写真の中ぐらいの太さの神経線維(自律神経線維)が回復できなかったのではないのでしょうか？ 自律神経の損傷により血管運動中枢が元の状態に回復しなかった可能性を考えています。

今までの鍼治療の中で、坐骨神経痛の激的な痛みが軽減した後も「しびれ」が6カ月間程度残った患者さんの例を経験しています。神経線維の太さが「痛み」・「しびれ」・「麻痺」の回復する速度に影響を与えている可能性があります。

3・「しびれ」への鍼治療

私たちが行っている鍼治療は実験室で行うものではなく、社会生活を営んでいる患者さんを対象にしています。そこには当然、全く同じ環境で同じ行動をしている患者さんは1人としていませんし、患者さんはそれぞれに微妙に違う症状を有しています。それぞれの症状について厳密な検証を行いそれぞれに治療法を見極めるのは不可能です。そのため、患者さんの環境や行動などを考慮した上で神経線維のことをさらに加味し、患者さんごとに「痛み」・「しびれ」・「麻痺」の鍼治療を工夫していく必要があると思います。